

平成28年度 第1回豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録要旨

日時：平成28年11月1日（火） 15時00分～16時30分

場所：豊川市役所 本34会議室

出席者：

愛知大学 教授 阿部 聖委員
豊橋創造大学 准教授 花岡 幹明委員
豊川青年会議所 監事 白井 正和委員
東海税理士会豊橋支部 佐竹 宏仁委員
連合愛知三河東地域協議会 事務局長 瀬野 弘志委員
豊川信用金庫 執行役員 経営支援部長 平松 俊浩委員
ひまわり農業協同組合 理事 早川 久代委員
豊川市市民協働推進委員会 委員 牧 昌夫委員
豊川市文化のまちづくり委員会 委員 石黒 貴也委員
豊川市社会教育審議会 委員 伊奈 克美委員
公募 麻生 佳子委員
公募 中村 信彦委員

事務局：

企画政策課長はじめ企画政策課員3名、子ども健康部次長、商工観光課係長

欠席者：

豊川商工会議所 専務 松下 紀人委員

◎豊川市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況（平成27年度分）の評価について
（事務局 説明）

ー 資料にもとづき説明 ー

（会長）

・ありがとうございました。それでは皆様のご意見をお伺いします。

（委員）

・2つあります。1つ目は7ページ、新規就農者への支援の業績評価指標ですが26、27年度の人数が一人しか変わらないのに対し、実績額がかなり違います。これは26年度に何か大きな金額がかかる理由があったのでしょうか。2つ目は、若年者の就労支援です。必要としている方はとても多いと思うので、実績が少ないのがとても残念です。もう少しアドバイスの仕方を工夫したり、違う方法で対応しないと仕事をしていない若者が増えてしまうと思います。蒲郡サポートステーションの方たちが就労支援をしていると思いますが、なかなか就労にまで結びついていないと思いますので、もう少しメニューを増やすなどの対応が必要かと思います。

(会長)

- ・平成 27 年度実績でかなり人数が少ない理由はわかりますか。

⇒(事務局) 若年者の就労支援の人数が減った背景ですが、平成 26 年度までについては、愛知県と共同で就職説明会をしていました。こちらは緊急雇用対策の一つとして愛知県が始めました。豊川市による若年者の相談事業を、愛知県が開催する就職説明会に結びつけるかたちで事業を行っていたのですが、年々、景気の影響か県主催の説明会への参加者がだんだん減少してきて、平成 27 年度からは就職説明会については規模が縮小されました。こうした事業の見直しが影響しています。引き続き愛知県と協力して就職説明会と若年者就労支援事業をリンクしていきますし、蒲郡サポートセンターとも連携していきますので、参加者を増やすような取組みを実施していきたいと思います。

新規就農者への支援ですが、事業概要に農業機械導入事業費補助等ございます。購入される農業器具の金額によって変わりますので、このようになります。

(委員)

- ・計画のときから携わっていながら今更と思いますが、仕事を増やす、従業員数を増やす、という点からすると、直接的に従業員数を増やす、企業の規模が大きくなる、そういった事業を総合戦略の事業としてももう少しいれておくべきだったかと思います。チャレンジ豊川活性化事業についても、創業を増やすことは大事ですが、直接的な雇用に関係していないというのが現状です。創業していきなり多くの従業員を雇用するケースは、ほとんどありません。現在立地している企業の売り上げを増やして従業員数を拡大するような取組みをもう少しいれておかないと、このまち・ひと・しごとの最終的な目標である仕事を増やすことには繋がらないと思います。PDCAサイクルのどこかの段階で、新しい取組みを入れる必要があると思います。

(委員)

- ・この評価基準では、主管課評価で×がつかないのではないのでしょうか。目標を達成しなくても、取り組んでいけば効果がないとはいえませんが、そうすると×はつかないです。それから 8 ページの最後、6 次産業化への支援ですが、これは一回しか開催できなかったというのは仕方ないのですが、業績評価指標としてセミナーの開催回数が書いてあり、昨年度は 2 回やって今年度 1 回に減り後退しているので、ここはやはり×ではないかと思います。

(会長)

- ・1 回になった理由はあるのですか。

⇒(事務局) 委員のご指摘のとおり×になっても仕方ないかもしれませんが。一度担当課と話し合ってみたいと思います。

(会長)

- ・では次に基本目標②に入りたいと思います。

(委員)

- ・12 ページの景観整備への支援について、今年 10 年目で終わりということですが、目標値 3 件に対し平成 26, 27 年度ともに 1 件しかありません。申込み自体がなかったのでしょうか。

⇒(事務局) 申込み自体が 1 件ということです。こちらの事業は対象地区において希望者があれば、補助するかたちになっています。

(委員)

- ・予算も結構な額がついていますが、申込みがこない理由は、おおむね終わっているということでしょうか。

⇒(事務局) 主な店舗はやっていただいていると認識しています。

(委員)

- ・制度を適用できるけれども、やらないところはまだ残っているのですか。

⇒(事務局) 残っています。ご自身の負担も必要になりますので、そのあたりの兼ね合いがあると思います。

(委員)

- ・市としてこの事業が当初から目標としていたことを達成し、これで終われるのならいいですが、そうでなければお店側の負担が大きいからやらないところが多いということになるので、そのあたりを検証したほうがいいのかと思いました。

(会長)

- ・この事業は今年度で終了ですか。市としては 100% 達成したという認識ですか。

⇒(事務局) 100% ではないと思いますが、特に中心市街地の活性化については、ファザード整備やリノベーションなど新たな取組みの中で活性化を図っていくということですので、担当課としては区切りにするということだと思います。

(委員)

- ・勘違いしていたら申し訳ないのですが、単純に店を直すのはいいと思うのですが、店を直しても後継者がいない場合、そこまで投資できるかという話になります。ハード面はいいとしても、来年度以降、ソフト面の対策として後継者の育成や、門前に人を呼べるような仕掛けの強化をしていけば、ハード整備が生きてくると思います。

(委員)

- ・全体に言えることだと思いますが、今後の方針等についての欄は何も入力されていません。これはどういうことでしょうか。

⇒(事務局) 本日の会議での意見を担当課に伝え、それもふまえて今後の方針を検討し、記載していきます。

(委員)

- ・それでは調整中というのは、この会議でいうことよりも、担当課で調整を現在なさっているという判断でいいですか。

⇒(事務局) まだ着手もできていない、一歩前の段階と考えていただければと思います。

(委員)

- ・必要性の有無とは別の話ですか。

⇒(事務局) いただいたご意見については担当課へ伝えます。

(委員)

- ・どの辺りまで着手できたとか。空き店舗の活用、改修などへの支援など、どこまでできて、何か研究したのか、情報発信をしたのか、どうなっているのか、としか聞きようがないです。これを掲げたけれども、地域住民がついてこないとか、商売をやるほどのものではない、とか。空き店舗で介護事業とか保育事業も考えられます。特に中心市街地の空き店舗活用については、消費者のニーズを考えた場合、難しいのではないかと感じました。

⇒(事務局) 「調整中」の意味ですが、総合戦略は平成 31 年までの事業計画です。

予算措置ができているものについては、「取組中」もしくは、「H28 着手」としています。調整中というのは予算措置がされていないものですから、そのような表現をさせてもらっています。

(委員)

- ・わかりました。

(委員)

- ・13 ページのインバウンド対策事業についてです。業績評価指標がセミナーに何人参加したかになっています。そもそもセミナーに 20 人参加したからといってインバウンド対策ができたかという、そうではないと思いますので、例えば外国人観光客が何人来たかとかそういう目標設定にした方がいいのかと思いました。

⇒(事務局) 今年度着手の事業については、今回の評価対象にはなっていませんが、担当課が本日ここにいますので持ち帰って検討させていただきたいと思います。

(委員)

- ・基本目標②では、企業立地をすすめるための事業がはいっていますが、そもそもどんな企業を呼び込むか、その議論が必要かと思います。例えばリーサスを使うと市場規模が大きかったり、付加価値が高い企業であるかがわかります。行政だけのメニューでは、個別の企業の状況も見えると聞いています。それによりある企業が外からお金を生み出すのか、域内の取引先との関係がどうなのか、そういった情報をもとに企業や産業を育てる、あるいは企業立地を促進するというような全体的な戦略が必要かと思いますので、総合戦略を見直す時には、そういった視点での

検討をしていただければと思います。

(会長)

- ・基本目標③の子育て環境づくりに移ります。

(委員)

- ・4つあります。21 ページの放課後児童健全育成事業のところですが、放課後児童サービス、児童クラブなのですが、目標値には達していないものの9割程度達成となっています。これだと目標値でこれだけ入れるように用意したけれども、これしか来なかった、というように、希望した人は全て入れたように見えます。実態は、希望したけれども入れず、仕事ができなかった母親がいる、というのがこの表でわかると思います。それからワークライフバランスの啓発ですが、これは評価指標がないのでわかりにくく、啓発していくメニューが講座メニューだとかチラシだとかで徐々に浸透しているということですが、豊橋市ではファミリーフレンドリー企業などをもっと取り上げていき、そうした企業は入札しやすくなるとか、近隣市ではもっとメニューがあると思うので、このままでいいと思うのは甘いと思います。次に23 ページの一次預かりですが、一時的に子どもを預かるところで、子どもの入れる数が5750人なのに、そこに6743人をいれて、確保値よりも上回る児童を受け入れており相当効果があった、と言っているのは、10人しか入れないところに15人受け入れたのかと思えてしまいます。違う時間にも受け入れていたためだとは思いますが、この表現は、読み取り方をかえると危ないもので評価できるものではありません。それだけ希望があったので1園増やしたとか、時間を延ばしたというのが評価にあたるのだと思います。最後に病後児保育です。確保値としては600人分確保しているが実績は435人ということです。病後児保育というのはいつ困るかわからないです。インフルエンザの時期にはお断りしているケースもあるかと思います。そうかと思えば夏場など1人も来ない日もあるという保育です。評価指標では、確保値に対する実績値を言うのではなく、お断りした数をいれたほうがいいと思いました。

(会長)

- ・以上4点につき事務局からはいかがでしょう。

⇒(事務局) 児童クラブの目標値と実績値ですが、実際には待機児童が発生している状況ですので、記載内容を再検討させていただきたいと思います。それから一次預かりですが、年齢により保育士の配置基準が違いますし、ニーズが高い中で何か対応していきたいということで受入れさせていただいた結果だと思います。最後の病後児保育ですが、夏場は少ないですが、冬場は最大4人ですのでなかなか受け入れができないケースも聞いています。その辺は今後検討させていただきたいと思います。ワークライフバランスについては、担当課に伝え内容を充実し、対応させていただきたいと思います。

(委員)

- ・ 17 ページです。乳幼児健康診査事業が目標値を達成していないということは受けていない人がいるということだと思います。同じく、こんにちは赤ちゃん事業で、全ての家庭を訪問するということですが、9割程度はできたけれども1割弱はできていないというのは、それができない事情があるのでしょうか。家庭側に問題があるのではないかと推察するのですが、そういうところこそ育児放棄など今案じられる事態がおきる可能性を感じるものですから、それができるのか、厳しいのか、その辺のところを教えてください。

⇒ (事務局) こんにちは赤ちゃん事業については、制度上は4ヶ月以内ということですが、保健センターでは1ヵ月半を目標に行っています。訪問出来ない家庭こそ、必要な訪問をしなくてはいけないということで、そちらは保健センターではなく子育て支援課で養育支援訪問を行っており、保健センターと相談しあって洩れのないようにアプローチさせてもらっている状況です。

(会長)

- ・ ちなみに豊川市には待機児童問題はどのくらいの人数と試算しているのでしょうか。

⇒ (事務局) 保育は、国の基準だと保育園の空いているところを案内できれば待機児童にカウントしないので、その基準の中では待機児童はいない状況です。しかし3歳未満児の利用希望について、希望する保育園に入れるか入れないかを見ると、なかなか入れない状況があります。児童クラブについては、平成27年度が30人ちょっと、今年度が40人をこえる待機児童がおります。児童クラブについては小学校区になり、そこを越えての利用が出来ません。昨等待機が出たところでも、今年はなかったなど、申込みの時点で把握し、しっかり対応していきたいと思っています。

(会長)

- ・ 基本目標④の安全で快適に暮らせるまちづくりに移ります。

(委員)

- ・ 27 ページの東三河広域連合による事務事業の共同処理です。障害者支援区分認定審査事務ということで、サービスの充実や事務の効率化が図られたため、非常に効果的であったとあるのですが、本当に大丈夫かという気持ちです。本当に広域連合の支援の事務だけで済んでいるのか、相談できているのか心配です。

⇒ (事務局) 広域連合についての評価で社会福祉法人の認可については、愛知県で行う事務を広域連合で行うことは、窓口が近くなったのではないかと思います。消費生活相談については、統一された研修に基づいて相談員が配属されておりますので、相談業務のばらつきが市町村間で発生しないというのは評価に値するのではないかと思います。それから障害者支援区分については、きめ細やかな相談というよりは認定審査事務を行っているところですので、個別のケースの相

談は受け付けていませんが、一応個別的に認定審査が行われているということでその辺を含めて評価させてもらっています。

(委員)

- ・ゴミ屋敷で火災があった、というニュースがありましたが、豊川市にはそういうところはあるのですか。

⇒(事務局) 言葉の表現はともかく、ご自宅がそうした状況にあるご家庭はございます。

(委員)

- ・そういうのは市としてどういう取組みをしていますか。

⇒(事務局) 通報をいただき把握はしていますが、そこから先の取組みについて、事務局ではあまり詳しく把握しておりません。

(委員)

- ・26 ページの老人クラブ活動への支援についてです。実績値が減っています。お年寄りが増えていのに、なぜ老人クラブの会員数が減っているのかという素朴な疑問です。

⇒(事務局) 過去の経験にもとづき話をさせていただくと、老人クラブは60歳から入れるのですが、自分は老人ではないと思われる方が多いということと、役員が決まらないことがありました。そういったことが今でもあるのではないかと推察します。

(委員)

- ・今回こうやって評価し、担当課にそれを戻し、今後の方針等が出てきて公表になるのですか。

⇒(事務局) あとは事業評価というものがあり、この事業を継続してやっていくべきなのか、そのあたりの判断もいただけると。例えば実際は×なのではないか、というものについては、1回目の会議としてはペナルティとしてこれだけ強いことを言っておきますが、この次にそれができていない時は、事業を存続する意味があるのか、その事業は一旦やめてほかの事業をとというご提案をいただくこともあるかと思います。

(委員)

- ・というのも、今評価しているのが27年度分で、28年度もすでに7ヶ月済んでいます。やりとりしている間にまた次の年度に入ってしまうのではないかと思います。この総合戦略会議の意見欄では、前回、7月に国へ報告する必要があるため書面でやりとりしたものがここに入っています。できればそういうタイミングでフィードバックしていかないといけないと感じます。また、総合戦略においては感覚というよりも、数値を用いて客観的に評価することを進めている感じがするのですが、今回の各担当部課の業績評価指標にはばらつきがあります。その辺りの整合性をとつ

ていったほうがいいと思います。また、課によって評価の仕方がだいぶ違います。数値的な評価をする課もあれば、感覚的な評価をしている課もあります。項目により数値化するのが難しいのはわかるのですが、この評価をする時に担当課を集めて評価についてのレクチャーをしないとばらつきがでてしまうのではないかと思います。あと子育て支援を全面に打ち出している豊川市なので、結婚・出産・子育て環境づくりの KPI が低いのが残念です。この矢印が右肩あがりになるようにしてほしいと思います。

⇒（事務局）所管課によって指標のとらえ方に違いがでてしまうのは苦慮しているところです。ここにあげているのは原則、業績評価指標としていますが、実際は活動指標であったり、アウトプットとアウトカムが一緒になったかたちであがってきています。これは実施計画において、各課がどれだけ事業を達成できたかということを数字で管理していこうということなのですが、その設定については本当に苦労しながら設定しています。それに対して企画政策課からあまり強くはいえないのですが、どうしてもということについては企画政策課の方から提案しブラッシュアップしていきたいと思います。それから事業評価のタイミングは、もっと早くやっていきたいと思います。評価をいただいた上で、その内容を次の年度に生かしていけるようなスキームでやっていきたいと思います。また子育て支援の関係ですが、今回目標数値が2つ下がっているものについては連動性が高いものだと考えています。合計特殊出生率が下がる大きな背景には、子育てに対する姿勢が様変わりしてきていることがありますので、色々な支援に向け動いていきたいと思います。

（委員）

- ・8 ページの耕作放棄地解消への支援というところです。これは耕作放棄地を借り入れする希望の耕作者が新規の方ということですか。それとも、現農家でもっと増やしたい方なのか、あと申請件数も現農家が耕作放棄地を使ってくれと申請しているのか、新規の方の件数なのか両方とれます。「解消」という言葉を「利用するための支援」とした方がよいと思います。やはり表現を変えないと、農家がこれを見た時にどこが解消されているのだろうと思うような文面だと思います。

⇒（事務局）表現については検討します。

（委員）

- ・全体的なことで、前の会議でも言っていましたが、行政も競争的という言葉がありました。豊川市の強いところがなかなか伝わらないと思います。どちらかと言うとよそと同じレベルを維持するためにがんばっているのかなという判断ぐらいしかつきません。今ではなくてもいいので、戦略ですから将来的に、これを見た人が結果的に豊川への定住とか就職とか、そういうことに繋がっていけばいいかと思っています。

⇒（事務局） ご指摘の点は一番の課題だと考えています。色々な課に豊川の強み、アピールポイントを活かせる事業を企画からも投げかけをしている段階です。時間がかかるかもしれませんが、少しずつ芽が出ればいいと思っています。

（委員）

- ・介護の話です。2020年に介護保険の改正がなされると思います。今、介護事業自体が行政とは別のお金の動きをしていると思います。もっと介護事業を市が監視できるような行政になってほしいと思います。聞くところによると、デイサービスも地域密着型ということで、豊川市民しか利用できない事業所も出てきているようなので、素晴らしい豊川市の介護事業に育ててほしいと思っています。雇用にも繋がりますし、そういうところにも入り込めるようにしてほしいです。

（会長）

- ・基本目標ごとの担当部署の連携というのはあるのでしょうか。

⇒（事務局） 現段階では計画策定後に作業部会を開催していませんので、情報の共有ができていない状況ではありません。ただ新年度の予算で、予算が認められてからの話ですが、複数課が集まりワーキングができる体制を作りたいとは思っています。

（会長）

- ・目標の設定だとか、評価のばらつきがあるようですが、連携していくことでその改善に役立つと思います。そろそろ時間ですので、この辺で議論を終えたいと思いますがいかがですか。今日出た意見については、担当部署にフィードバックしていただき、様々な問題点も指摘されましたので、その解消に向けて努力していただければよろしいかと思います。以上です。

（事務局） － 事務連絡 －

以 上